

夫のすてき

小松崎 有美 埼玉県所沢市 二十五歳

夫が脳梗塞で倒れた。意識は戻ったものの、高次脳機能障害という後遺症が残る。トイレの場所。袖の通し方。箸の持ち方。どれも忘れてしまい、何ひとつ自分でできない。相当悔しいのだろう。「これなら死んだ方がマシだ」と泣き出した。そんな夫を元気づけようと家庭菜園を始めた。何てことはない。庭に植えたトマトやキュウリ、ペチュニア。それらを一緒に眺め、草を取り、水をやるだけ。しかし夫は雑草との区別がつかず、苗を全部引っこ抜いてしまう。夜な夜なこっそり植え直したことは数知れず。水やりをすれば誤ってホースを私に向けてしまう。そんな生活が続くこと三ヶ月。水やりをしていると突然夫が「すてきだね」と言い出した。スッと伸びた蔓を見ても「すてき」。ちいさな実を見ても「すてき」。色づいても「すてき」。泥だらけの私の顔も「すてき」。残念ながら今もトマトやペチュニアの名前は思い出せない。だけど「すてき」と言われるたび、心が温かくなったのは事実。そうか。「すてき」の中に「すき」はある。夫は草花の成長が好きで、私のことも好きなんだ。ならばこれからもすてきな妻でいられるよう、がんばろう！今はそう思う。